

旧伊藤博文邸（滄浪閣）

邸園の概要

※特別なイベント以外は非公開です。

所在地 大磯町西小磯 85
建設年 大正 15 年（1926）頃
※当初建物は、明治 29 年（1896）築
構造 和館・洋館 木造／2 階建



明治ゆかりの邸園

旧伊藤博文邸（滄浪閣）は、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文にゆかりのある別荘です。

邸園の概略

伊藤博文は、明治 18 年（1885）に第一次伊藤内閣を組織以降、明治 25～29 年、31 年、33 年～34 年の計 4 回内閣を組織した後、明治 38 年（1905）から韓国統監に就任、明治 42 年（1909）に銃弾に倒れました。

伊藤博文は、明治 23 年（1890）に小田原十字町に別邸を設け「滄浪閣」と名付けましたが、梅子夫人の療養のため、明治 29 年（1896）滄浪閣を大磯に移した後、明治 30 年（1897）10 月 1 日に本籍を東京から大磯に移し、ここを本邸として使用しました。

博文没後、養子博邦に継がれ、大正 10 年（1921）に朝鮮京城府李王職の長官を務めていた李載克に譲渡されました。大正 12 年（1923）の関東大震災で被害を受け、現存する建物はその際に再建された建物です。戦後には、米軍に接収され、軍人の施設として使用されました。

昭和 26 年（1951）に西武鉄道が購入、昭和 29 年（1954）から平成 19 年（2007）まで大磯プリンスホテル別館として「滄浪閣」の名称を残し営業していました。この間に行われた改築等により当初の状況をとどめているのは洋室棟と和室棟のほか、小屋組等の軸組は旧状を残しているものの、間仕切りや仕上げ材などは改変されました。しかしながら、町民からは別荘地大磯のシンボルとして変わらずに認識されています。

写真提供：大磯町

出典：『大磯のすまい』大磯町教育委員会、1992

「日本の別荘・別邸」『別冊太陽』平凡社、2004